

第 15 回 地域肝炎治療コーディネーター教育セミナー議事録

日時：平成 29 年 9 月 21 日 (木) 18:30~20:00

場所：ホルトホール大分 3 階 「303 会議室」

テーマ：「肝炎医療コーディネーターの役割と肝炎患者の掘り起しのための工夫」

総合司会：大分大学医学部附属病院 消化器内科 本田 浩一先生

一般演題(20 分) 座長：大分大学医学部附属病院 消化器内科 所 征範先生

「平成 29 年度 市民公開講座「やさしい肝臓病のお話」活動報告」

演者：大分大学医学部附属病院 消化器内科 織部 淳哉先生

18:30 に本田先生のあいさつで会は始まりました。

本田先生は 3 枚のスライドで、受検、受診、受療への流れが重要で、肝炎医療コーディネーターがかかわっていく必要があることをしました。今後は各コーディネーターが肝炎患者掘り起こし等で、何か企画をした場合は、資金援助をしますので、連絡してくださいと案内があった。

16:40 織部先生の講演

まず織部先生から本年度の公開講座の活動報告がありました。公開講座は大分は盛んで、県内各地で行っている。平成 15 年から述べ参加者数は 10870 人になりました。

最近開催は県内 5 か所で落ち着いている。今年は、織部先生が責任者として、中津市、玖珠町、別府市、大分市、豊後大野市で、開催しました。各地区での公開講座のテーマと様子を写真を含めて、報告しました。参加者は 578 人で例年と同じくらいの出席者でした。375 人の方がアンケートに答えてくれました。大分市の参加者は 416 人で、

肝炎とメタボリックシンドロームの特別演題が最も関心が高かった。別府市、中津市、玖珠町では脂肪肝のお話がで関心度が最も高く、豊後大野市では肝がんの関心度が高かった。

全参加者の年齢分布を示し、70 代が最も多いことを示し、スライドの枚数、見やすさが重要であることを心掛けた。市民公開講座参加のきっかけ、チラシがもっとも高い。次に市報であったので、このチラシの配布などを今後さらに検討し、公共のメディアを通して、周知を徹底させることが重要と考えられた。肝炎関連では、肝炎の医療費助成、無料検査に関しては、約半数が認識していた。肝炎シール、リーフレットに関しては 20%が見たことあるとのこと。肝炎シールやリーフレットについては、今後どのように周知をしていくか重要な課題である。肝炎治療の情報について主治医、新聞、製薬会社の広告、メディアなどが多い。患者さんは病気について誰に相談するのか？主治医がもっとも多く 75%くらいであった。次が家族であり、コーディネーターへの相談は限られていた。肝炎の治療の情報や病気の相談をする対象は主治医が多いのは当然であるが、診療中には十分な説明をする時間を割く

ことができない場合がほとんどである。今後、そこに肝炎治療（医療）コーディネーターの役割があると考えられる。

質問

①情報提供の内容、脂肪肝をより良いか？

A：講演の内容を興味あるものを盛り込みながら、C型肝炎、B型肝炎のお話をいれていく事が重要である。大分市のケーブルテレビで大分市で行った市民公開講座の様子を放映されている。

②チラシはどうやって入手しているのか？

A：大学は主治医から直接渡している。鶴見は大河原先生が診療で渡している。新聞の折り込みチラシ。チラシをただ置いているだけでは厳しいと考えられる。

③市民公開講座の問題点と改善点

- ・参加者を増やしていく。チラシを増やす。開催場所を増やす。市報をもっと載せる。
- ・チラシの配布に関しては、開業医へ直接配布できるよう工夫する必要がある。
- ・リピーターは半数以下。新規は半数以上いるので公開講座は継続していく必要がある。
- ・来年は8月の第1週の土曜日に実施する予定

織部先生御苦労さまでした。

総合登録(70分)

司会：清家 正隆先生

「全員参加の総合討論」

コメンテーター：大河原 均、成田 竜一、香川 浩一、本田 浩一、織部 淳哉

荒川 光江 所 征範 各先生

まず、清家先生がスライドで、肝炎治療の公費助成の申請数の推移を説明、わずか3年でDAA治療者数の方がIFNベースの治療を上回っている現状とほぼ97-8%治療している現状を報告する。最近には月に平均30名程で公費申請が行われている。7月27日に世界肝炎デーで、トキワ本店前で、健康づくり支援課を中心に行った肝炎検査推進のビラ配りに肝疾患相談センターが参加したこと、またアルメイダの検診センターを訪問した際の、肝臓病に因んだ工夫や、鶴見病院健康管理センターでの肝炎シールの普及に向けた活動の一端を紹介した。このような小さな工夫が、広がっていくのを期待しています。

さて、前回14回のコーディネーター教育セミナーはいろんなことに気づいた会でした。スライドで以下のような現在コーディネーターの活動の型に分け、テーブルを移動して、議論を始めましょう。

コーディネーターの役割

- ① 新別府病院型：ソーシャルワーカー型
- ② 鶴見病院型：検診保健師型
- ③ 大分日赤病院型・大分循環器病院・大学病院：専門病院型
- ④ 杉谷診療所型：肝臓専門医クリニック型
- ⑤ 内科阿部医院型：一般クリニック型
- ⑥ 三好循環器型：透析クリニック型
- ⑦ 企業型：職域検診型

15分くらい現状について議論してみてください。それから各テーブルで発表してもらいます。

<1>新別府病院 工藤さん:MSW

受診してHCV抗体陽性の方で、かかりつけではない方に連絡。郵送は難しいので、電話連絡している。今後は仕事の分担をしていく。新別府病院は7人肝炎治療コーディネーターがいるが、看護師の配置転換等があり、仕事が継続できていないが、今後は連携して連携して行っていきたい。

<2>大分大学 藤田さん(肝炎治療コーディネーター)

大学では肝炎患者が受診するので、掘り起しの受検、受療の勧奨がなかなかできない。その中で、杉谷診療所は受検まですすんだ例があり。看護師の方がそれをしたとのこと。今はDAA治療の服薬サポートをしている。訪問診療などで服薬管理の指導をしていく必要がある。認知症の患者さんが多いので、服薬指導が難しいので手薄になっている。

清家：服薬指導は高齢者が多いので重要な課題ですね。院外の薬剤師さんと連携していきましょう。肝炎でない人に肝炎シールを配っていくことは可能か？通常業務の中で行っていくのはかなり困難か？

杉谷診療所：成迫さん

企業検診でも毎年、肝炎検査を行っていたり、ワクチンを投与していたり、無駄が多すぎ、お伝えしても、なかなか改善がありません。

清家：そうですね。そこは依頼者との関係で難しいですね。昨年からユニバーサルワクチン接種が始まり、生まれてくる人にHBワクチンを投与するようになりました。大きな進歩ですね。そのような動きと連動して改善するよう働きかけをしましょう。

<3>内科阿部医院：大口さん

一般クリニック型、肝臓専門の先生ではないので治療を勧めるというのは難しい。
肝炎治療コーディネーターが3人から1人で減ってしまい、マンパワーが減っている。
清家：大口さんはコーディネーターのモデルですので、今後も引き続きお願いします。

<4>三好循環器 佐藤さん(透析クリニック型)

コーディネーターの清水さんが透析施設の管理をしている。透析患者に関しては、肝炎検査陽性者は清家先生の診察に回してもらえるように頼んだりしている。

清家：透析は比較的管理できているので、ひきつづきお願いします。肝炎治療の進歩もありますので、透析中であっても、治癒できますので、陽性者の治療を薦めていきましょう。

<5>厚生連健康管理センター

掘り起しをどうしていくか。同じ肝炎の検査を何回もしたりしている状況がある。

肝炎の病気に対する啓蒙を年1回していくのは大事であるとのこと。

お祭り、肝炎デーとかで、C型肝炎検査をするのはどうか。煩雑な中で検査をするのは難しいのではないかと。保健所まで無料検査をしに行くのはなかなかないかと思う。

周知徹底、かぼすタイムで紹介というのは認知という点としては大きい。

保健所の方が中心となっていけないといけない。

肝炎が怖いという事を認識してもらわないといけない。

<6>その他 別府市保健師

病棟の看護師さん、ソーシャルワーカーの班である。日頃の業務の中で受診勧奨は困難。

肝炎シールなどは配布している。地域差がある。市民公開講座が5か所なので、それに当てはまらない地域は参加しにくい。公開講座の開催場所を増やしてほしいとのこと。

チラシの配布に関して、メーカー、市の保健師など協力してやっていきたい。

清家：とてもいい意見を伺いました。いつも行政保健師の出席は少ないので、今日はありがとうございました。そして、とてもためになる意見で、大分市や別府市をひとくくりにしな
いで、高齢者で、行きたくてもいけない人もいますので、配慮が必要と思いました。佐伯市では今年、公開講座は行っていませんが、いつも佐伯市内で行っても。蒲江で行ったことはないですね。来年少し考えます。

今日はありがとうございました。時間となりましたのでこれで終わりますが、最後にご利用と報告があります。まずお願いですが、職域検診の推進です。検診も際に、肝炎検査を勧奨しても、費用が掛かる場合は、まず受けません。そこで、保健所等の無料検査を勧めていただけませんか？わざわざ、保健所までいけませんよという意見は承知していますが、よろし

くお願いします。

次に報告です。大分県肝炎医療コーディネーターの要綱ができました。皆さんに配布しています。これに基づいて、11月か12月に養成講座を行います。ぜひ出席してください。よろしくお願いします。

次回セミナーは1月25日です。よろしくお願いします。今日はお疲れ様でした。

清家：今日もいろんな問題がでてきました。今後は事例を少し入れて、実践的な議論をしていきましょう。また、何か企画がありましたら、肝疾患相談センターへご連絡下さい。

文責：清家正隆